

## 農林漁業現地情報（一般情報）

### 大豆の事例

#### 3 農業新技術の開発・普及等

「クロタラリア」で収量安定を目指す [茨城・水戸市]  
- 大豆前作に導入して、線虫被害を軽減 -

水戸市の茨城県農業総合センター農業研究所病虫研究室（上田康郎室長）では、このほど大豆の連作障害予防に、前作としてマメ科植物のクロタラリアを栽培することで線虫による被害が軽減することを実証した。

近年、転作大豆の連作ほ場においてダイズシストセンチュウによる生育障害や収量の低下が指摘されている。同研究室では、野菜のネコブセンチュウ発生抑制にクロタラリアが有効であることに着目、これを大豆に応用できないかと平成11年から北海道農業研究センターと共同で実証実験を重ねてきた。その結果、10aあたり1.5t以上クロタラリアのすきこみ収量が確保できれば、線虫の卵の着生数は休耕地に比べ76～83%（12年値）に低下することが実証された。また、これにより大豆の収量は大幅に増加した。

同研究室では、「研究成果集や県の広報紙に掲載するほか、現地検討会や総合センター等の会議でとりあげ普及を図りたい」と話している。

連絡先：水戸市上国井町3402

茨城県農業総合センター農業研究所病虫研究室(電)029-239-7211